

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

平成18年度病害虫発生予察注意報第9号

穂吸汁性カメムシ類（普通期水稻）

1．発生地域（対象地域） 県下全域

2．発生程度 多

3．注意報発令の根拠

- （1）8月下旬の巡回調査（63筆）の結果、出穂した水稻の圃場内における主要な穂吸汁性カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ、アカスジカスミカメ）の発生は、捕虫網による20回すくい取りで1.2頭（平成0.5頭）と多く、発生圃場率は41.3%（平成23.3%）と高かった。ホソハリカメムシの発生が最も多く、次いでシラホシカメムシ、アカスジカスミカメの発生が多かった。
- （2）気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平成並か少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

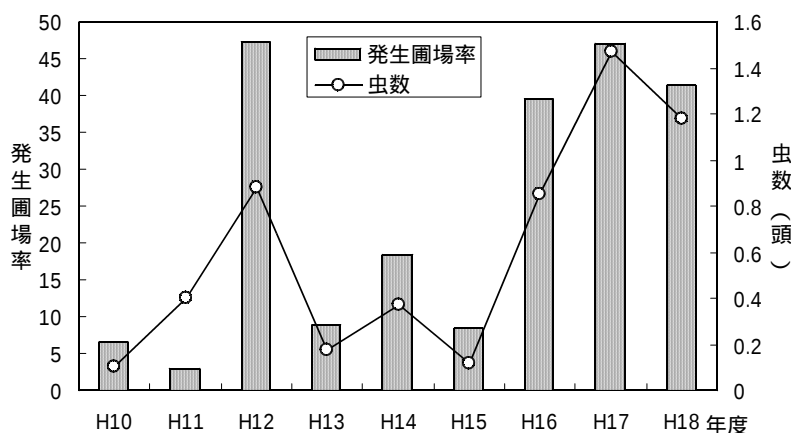


図 水稻圃場内におけるカメムシ類の発生推移(8月下旬)

注) 虫数は捕虫網による20回すくい取り当たり虫数

4．防除対策

- （1）出穂期以降すでに防除を行った圃場においても発生状況に注意し、発生が認められるようであれば1回目の防除から7～10日後に防除を行う。
- （2）カメムシ類の飛来源である圃場周辺のイネ科雑草地も含めて広域一斉防除を行うとより効果が高い。
- （3）出穂期以降の圃場周辺の除草はカメムシ類の圃場への侵入を助長するので避ける。
- （4）薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。